

いわゆる『標準帽』の制定について

教頭 村田通夫

さつと、学校服装委員会における検討の経緯をご報告したいと思います。

標準帽の必要性について

は、以前より先生方の間で折

にふれ話しに出ていました

たが、昨秋の修学旅行を機

に、制定について保護者の

方々の賛否のご意向を問う

こととし、このことについ

ては、その後のPTA実行

委員会にもご相談してまい

りました。

制定の必要性を感じるに

至った理由については、先

のアンケートにも記しまし

たが、

(一) 安全面より — 災害時

頭の危険防止・校外進

出時の目印。

五条小学校児童標準帽の

制定について、PTA広報

委員会より、現状について

の記事を書くようにとの指

名がありましたので機会に、

改めて、標準帽子制定のいき

(三) 連帯意識の昂揚 — 五条

小学校児童としての誇

りと自覚を持たせ、お

互に助け合う連帯感

を培う。

(四) 服装の調和 — 修学旅行

遠足・見学会等、校外

進出時の私服と紅白帽

の不調和。

等があげられると思います。

とりわけ現代の子に共通

した弱点とされる、ねばり

強さに乏しいこと、団体行

動における規律性の乏しさ

等を、子ども自身が自覚を

思われます。

ある人は、まったく服飾

の見地より答えられています。即ち、服装の個性・趣味の尊重。或は、よりマッチしたものを、というよう

な考え方であろうかと思いま

す。また他の人は、帽子

の機能性に目を向け、活動

トという結果でした。また、

に適した役立つものを、と

していきます。

計は、賛成八十三パーセントという結果でした。また、賛成の中にも、いろいろの意見があり、不賛成の方の中にも、根本的には反対でない方もおられます。

そもそも服装（帽子も一

応この範疇に入る）と位

置づけて」という言葉から

受けとるイメージについて

は、多様な要素を持つてい

るだけに、どの角度からと

らえるかによって、意見の

分かれどころであろうと

思われます。

しかし、その過程におい

ては、どの意見をもとり上

げ、検討し、時間をかけて

でも一步一歩まとまりへと

近づける努力を惜しんで

ならないと思っています。

また、その様な経緯を経て

の機能性に目を向け、活動

貨店の予定）をまじえ、よ

り具体的な場での検討に入

ります。

未だ標準帽についての具

体的な答えの出でない、ど

う観点に立って答えられ

た人もおられると思います。

服装委員会は、大多数の

方々のご賛同を基盤に、ど

う意見をも取り入れ、一

つのまとまりとしての結論

を出すべき宿命になつて

います。とはいっても、多

様な要素を標準という一

つの結論に集約させることは、

無論至難であり、不可能で

あります。

二月二十日記